

おさかな学習会

一般社団法人 大日本水産会

プログラム概要

当団体は、水産物の消費が低迷する中で、水産海洋国家日本としての魚食の復権を目指し、小学校おさかな学習会を1.おさかなゼミ 2.タッチプール(一部鮮魚タッチ) 3.模擬漁体験 4.調理教室の4項目について実施し、水産業界ならではの観点から子供たちに体験学習を提供します。



対象者	幼児、小学生、特別支援学校の児童・生徒	実施可能エリア	全国
テーマ	食育	対応可能日	平日授業、夏休み等の長期休暇
費用	全て無償	主な開催場所	学校
所要時間	90分 ※45分～90分でアレンジ可能	対応条件	条件をご相談ください 基本的には全学年対象(学年別実施は応相談)

活動概要

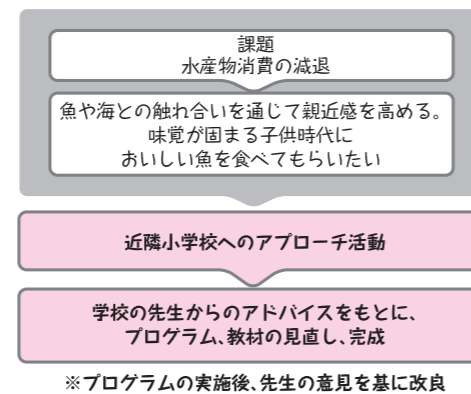
【活動のきっかけ】

水産物の消費が減少を続け、子供たちが海や魚に接する機会も減少してきている中で、都市部の小学生を対象に海を知り魚介類に触れ合うことで海洋国家である日本の水産業や魚の栄養について関心をもってもらい、水産物の消費減少に歯止めをかけることを目的に小学生を対象とした「おさかな学習会」を始めました。

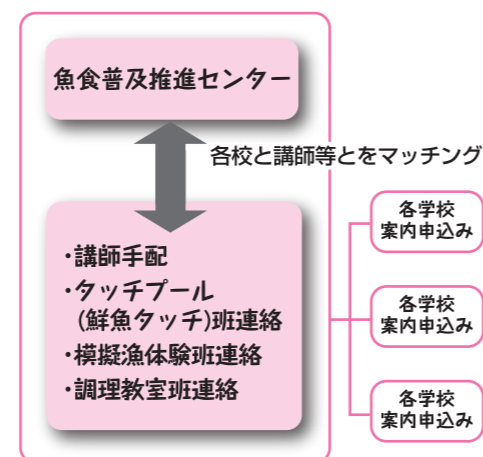
世界では和食が健康に良いと認められ魚も積極的に食べるようになってきましたが、日本では逆に食の西洋化が進み和食に欠かれない魚の消費も減退の一途をたどっています。

こうした状況を踏まえ水産業界として魚を食べる事の大切さを伝えていく活動を行っています。

【開発までのプロセス】



【実施体制】



※メニューは各地によって異なることがあります。

活動の特長・工夫

「おさかなゼミ」の時間中に低学年の児童でも飽きないように工夫を行っています。

①おさかなクイズの実施

子供の好きなクイズを出題、児童の参加意欲を高めます。

②漁船が実際に操業している動画を視聴

漁船が実際に操業している様子を視聴覚で捉えます。

③漁具・魚の骨の観察、生きた魚に触る等の体験

漁業を支える道具等、実物に触れることで理解を深めます。生きた魚に触る「2.タッチプール」が一番人気です。

プログラム内容

【ねらい】

- 日本の海洋、資源、水産業、漁業、水産加工、魚の栄養、お魚調理メニューなどの紹介をして、海を知り、魚を知り、食べることの大切さを学び、理科・社会科・家庭科などの学習と関連します。
- 事前に魚関連の「絵画・工作コンクール」や「作文・俳句コンクール」などを実施し当日表彰式をすと美術や国語の学習にもつながります。

【進行概要(時間・内容)】 45分×2時限

STEP1 (45分)

おさかなゼミ

寿司ネタや魚の写真から魚種名を当てるクイズの実施。
本物の漁具の観察や迫力ある漁業操業風景を視聴し、生産現場の理解を深める。
ライフステージにあった魚食の必要性(健康機能性)の説明。

レクチャー

映像視聴

STEP2 (45分)

タッチプール・模擬漁体験

タッチプールで触り心地の違いを肌で感じることができ、初めて触る子供たちにとっては驚きの連続です。
子供たちの質問にも専門家が答えます。

ワーク

※各学年ごとに「おさかなゼミ」と「タッチプール・模擬漁体験」をセットに実施。学年によっては「おさかなゼミ」と「タッチプール・模擬漁体験」の順番が逆になります。



児童・生徒の声

魚のことを知ったり、触ったりできて楽しかった。漁師さんの苦勞がわかった。命の大切さがわかった。

保護者の声

調理方法だけでなく魚の基礎知識も聞く事ができ勉強になった。調理教室参加後、魚を食べる回数が増えた。

教員の声

本物に触れる体験のすばらしさを実感した。3年に一度のペースで、このような機会をつくれば子供にとって有意義なものになるであろう。

本プログラムのポイント

- 海洋や魚への興味・関心を高める。
- 漁業の職業理解を深める。
- 魚を通じて食の大切さを学ぶ。

今後の展望

現在は、首都圏を中心に実施している「おさかな学習会」を全国展開していけるような体制づくりを行っていきますが、既に各地で特色のある「おさかな学習会」が実施されており、連携を図っていくとともに、地域の要望にあった対応可能な内容で行っていきます。

企業・団体連絡先:

一般社団法人 大日本水産会 魚食普及推進センター
〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル
TEL: 03-3585-6684 e-mail: osakana@suisankai.or.jp